

これからの日本の社会への、私の願い

北海道教育大学附属函館中学校 三年 南田 陽向

私達の生活の至る所に「税金」は潜んでいます。商品を購入する際に支払う消費税や、税金によって無償で支給されている教科書がその最たる例でしょう。「10%も消費税を納めるのはどこか損したような嫌な気分になってしまう」「理由はよくわからないけど、毎年教科書はタダでもらえるよね」私はこれらの言葉をよく耳にしますが、はたして本当にそうなのでしょうか。

私達が税金を納めるのは、ただ損をする行動なのでしょうか。私達は税金の使われ方をよくわからないままにして良いのでしょうか。私はそうは思いません。

税金とは、「公共サービスや公共施設の提供のために、皆で出し合って負担している費用のこと」を指します。私達中学生が普段通学している学校の校舎や教材、備品等に加えて、ゴミの処理や科学技術の発展にも税金は使われています。現在こそ収束の兆しが見え始めていますが、新型コロナウイルスが流行していた数年前には沢山の支援物資が私達の普段納めている税金から支給されました。様々な税金の使われ方の中でも私が意外に感じたものが、「救急車の搬送」です。日本では私達の健康状態に万が一の事態が起きた際には救急車で病院まで搬送してもらうことができます。当たり前ですが無料です。しかし、アメリカでは搬送距離や処置に応じて料金が発生し、最低でも十四万円は必要だということです。

目を閉じて想像してみてください。私達国民が納税をしない日本はどのような姿になってしまいかを。いつまでも回収されない家庭ごみが悪臭を放ち、どの公園にも一時間で数千円の使用料金が設定されている。病院ではどれだけ体調が悪くても高額な診療費を支払わないと診てもらえず、新たな感染症が流行しても対策や支援なんて一つも行われない。そんな日本はどうでしょう。お金を沢山持つ人だけが健康で豊かな生活を送ることができて、それ以外の人は危険で辛い生活を送らざるを得ない、そんな社会になってしまつて良いはずがない。

私達が税金を納めるのは、損をする行動どころか「私達自身の社会生活を守る行動である」と言えるのではないのでしょうか。

これからの日本の社会の担い手は、私達中学生です。今はまだ商品を購入する際に支払う消費税くらいしか税金との関わりがない私達ですが、この先多くの人は進学をして職に就き、本格的に「納税者」として社会生活を送ることになるでしょう。その際にはぜひ、大人から受け継いできたこの税金の仕組みを「恵みのバトン」を後世へ渡していきたいです。「税金って何？本当に必要なの？」等と尋ねられた時に「税金は私達の生活を豊かにしてくれる、素敵で必要な仕組みだよ。」と誰もが言えるような、一人ひとりの税金への意識や関心が高い社会になることを願って。